（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんはうすさくら　秋山駅前教室（児発）			
○保護者評価実施期間	2025年　11月　10日	～	2025年　11月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	35	（回答者数）	19
○従業者評価実施期間	2025年　11月　10日	～	2025年　11月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	12
○事業者向け自己評価表作成日	2026　年　1月　20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教室のスペースが十分に確保されている	教室が二部屋ある利点を活かし、机上活動・集団活動・クールダウン等、目的に応じた空間の使い分けを行っている。児童の気持ちや状態に応じて静かな環境を提供したり、発達特性や相性を考慮して少人数グループに分けたりすることで、安心して過ごせる環境づくりに努めている。	児童の成長やその日の様子に応じて、環境設定を柔軟に見直しながら、より落ち着いて活動に取り組める最適な空間づくりを継続していく。
2	体験活動が充実	児童一人ひとりの発達段階や特性、興味関心に応じた体験活動を計画・実施している。成功体験を積み重ねることができるよう、活動内容や難易度を調整し、自発的に「やってみたい」と思える環境づくりを心がけている。長期休暇中には、公共施設や公園等への外出活動を取り入れ、社会経験や集団行動を学ぶ機会を意図的に設けている。	これまでの活動を振り返り、児童の反応や成長を踏まえたうえで、体験内容の幅を広げた新規プログラムの検討・立案を行う。地域資源の活用や季節行事を取り入れ、より多様な経験が得られるよう工夫していく。
3	保護者と情報共有を密に行っており、日常の様子の共通理解や相談体制が整っている	ICTツールを活用し、日々の活動内容や児童の様子をタイムリーに共有できる体制を整えている。連絡帳だけでなく、必要に応じて面談や電話等を行い、保護者の不安や悩みに寄り添った対応を心がけている。支援方針については一方的に伝えるのではなく、家庭での様子や保護者の思いを踏まえながら、共通理解を大切にしている。	今後も継続的な情報共有と丁寧な説明を行い、保護者との信頼関係をより一層深めていく。職員間での情報共有も強化し、どの職員が対応しても一貫した支援・相談対応ができる体制を目指す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館・地域の他児童との交流や活動する機会が持てていない	これまで地域交流を目的とした活動の計画・実施に十分取り組めておらず、外部との交流機会を継続的に確保できていない。	児童や保護者のニーズを把握したうえで、無理のない範囲から地域交流の機会を検討していく。関係機関との情報交換を行い、段階的な交流活動の実施を目指す。
2	保護者同士の交流の機会が少ない	これまでおまつりやミニ運動会等のイベントを通じた交流はあったが、保護者会など定期的・継続的に交流が行える場を設けていなかった。	保護者の負担にならない形を前提に、意見や要望を確認しながら交流の場づくりを検討していく。情報交換や共感の場となるような機会の提供を目指す。
3			

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんはうすさくら　秋山駅前教室（放デイ）			
○保護者評価実施期間	2025年　11月　10日	～	2025年　11月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29	（回答者数）	12
○従業者評価実施期間	2025年　11月　10日	～	2025年　11月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026　年　1月　20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体験活動が充実	児童一人ひとりの発達段階や特性、興味関心に応じた体験活動を計画・実施している。成功体験を積み重ねることができるよう、活動内容や難易度を調整し、自発的に「やってみたい」と思える環境づくりを心がけている。長期休暇中には、公共施設や公園等への外出活動を取り入れ、社会経験や集団行動を学ぶ機会を意図的に設けている。	これまでの活動を振り返り、児童の反応や成長を踏まえたうえで、体験内容の幅を広げた新規プログラムの検討・立案を行う。地域資源の活用や季節行事を取り入れ、より多様な経験が得られるよう工夫していく。
2	保護者と情報共有を密に行っており、日常の様子の共通理解や相談体制が整っている	ICTツールを活用し、日々の活動内容や児童の様子をタイムリーに共有できる体制を整えている。連絡帳だけでなく、必要に応じて面談や電話等を行い、保護者の不安や悩みに寄り添った対応を心がけている。支援方針については一方的に伝えるのではなく、家庭での様子や保護者の思いを踏まえながら、共通理解を大切にしている。	今後も継続的な情報共有と丁寧な説明を行い、保護者との信頼関係をより一層深めていく。職員間での情報共有も強化し、どの職員が対応しても一貫した支援・相談対応ができる体制を目指す。
3	教室のスペースが十分に確保されている	教室が二部屋ある利点を活かし、机上活動・集団活動・クールダウン等、目的に応じた空間の使い分けを行っている。児童の気持ちや状態に応じて静かな環境を提供したり、発達特性や相性を考慮して少人数グループに分けたりすることで、安心して過ごせる環境づくりに努めている。	児童の成長やその日の様子に応じて、環境設定を柔軟に見直しながら、より落ち着いて活動に取り組める最適な空間づくりを継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館・地域の他児童との交流や活動する機会が持てていない	これまで地域交流を目的とした活動の計画・実施に十分取り組めておらず、外部との交流機会を継続的に確保できていない。	児童や保護者のニーズを把握したうえで、無理のない範囲から地域交流の機会を検討していく。関係機関との情報交換を行い、段階的な交流活動の実施を目指す。
2	保護者同士の交流の機会が少ない	これまでおまつりやミニ運動会等のイベントを通じた交流はあったが、保護者会など定期的・継続的に交流が行える場を設けていなかった。	保護者の負担にならない形を前提に、意見や要望を確認しながら交流の場づくりを検討していく。情報交換や共感の場となるような機会の提供を目指す。
3			